

12月から

し尿・浄化槽汚泥の 収集料金を改定します

公共下水道の普及に伴う収集量・収集人口の減少、原油価格高騰をはじめとするコストの上昇などの要因が、し尿・浄化槽汚泥収集業者の事業活動に影響を及ぼしています。このような中、今後も適正で安定的な収集運搬事業を維持していくため、12月1日収集分から、次のとおり料金を改定することとしました。

利用者の皆さんには、新たな負担をおかけすることになりますが、ご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

◎問い合わせ先
環境衛生課 ☎2157

改正の内容

【改正前】

- 基本料金
1回のくみ取り料200リットルまで
1260円(税込み)
- 超過料金
200リットルを超えた10リットルごと
63円(税込み)



【改正後】

- 基本料金
1回のくみ取り料200リットルまで
1340円(税込み)
- 超過料金
200リットルを超えた10リットルごと
67円(税込み)

対象地域	担当業者名	電話番号
一関地域のうち		
一関、中里、真滝、巖美、舞川、弥栄地区	(有)一関衛生事業協会	23-4408
一関地域のうち山目、萩荘地区	(有)青葉衛生	23-4054
花泉地域	(有)花泉衛生社	82-2358
	クリーンセンター花泉(有)	82-5393
大東・千厩(磐清水地区)・川崎地域	(有)東磐清掃事業協会	53-2255
千厩(磐清水地区を除く)・東山・室根地域	(有)東磐浄化そうセンター	52-2447

◇収集の申込先◇

大東・千厩・東山・室根・川崎地域で12月から

プラスチック製容器包装の分別収集スタート

プラスチック製容器包装は、これまで燃やすごみと一緒に収集していましたが、大東清掃センターに処理施設が完成したことにより、分別収集が可能になりました。これを受けて、同センター処理区域内でのプラスチック製容器包装の分別収集を、12月1日から試行します。

プラスチック製容器包装とは

○ マークが付いているもので、中身を取り出したり使い切ったりしたときに不要になるプラスチック製容器(商品を入れるもの)、包装(商品を含むもの)をいいます。

(例) 食料品の容器、お菓子類の包装フィルム・袋、ペットボトルのキャップ、ラベルなど
 パケツ、洗面器、おもちゃ、歯ブラシなど、それ自体が商品として使用されるプラスチック製品は該当しません。

出し方

○中身を使い切り、軽く水ですすいでから出してください。
 洗にくいもの、汚れがとれないものは、これまでどおり「燃やすごみ」として出してください。

収集方法

○「燃やせないごみ、缶類、びん類」、「紙類、白色食品用トレイ、ペットボトル、飲料用紙パック」の日に収集します。
○緑色の指定袋に入れ、出してください。

対象となる地域には11月15日号の市広報にチラシを折り込む予定ですので、詳しくはそちらをご覧ください。

◎問い合わせ先 大東清掃センター ☎75-3149または対象地域の市役所支所市民課

20年度市水防訓練

水害へ「備え万全」の決意を込めて



20年度市水防訓練は10月5日、狐禅寺の一閑遊水地周囲堤で行われ、市水防隊や自主防災組織など市内の各種組織・団体や、国県などの関係機関、合わせて約800人が参加しました。

開会式では、水防管理者を務める浅井市長が「本年は昭和23年のアイオン台風から60年目。あのような惨禍に再び遭うことのないよう、市民一丸となって安全安心のまちづくりを進める」と告辞。大雨で北上川と磐井

川がはらんする恐れがあるという想定により訓練が行われました。

訓練では、水防隊員らにより堤防の決壊を防ぐための▽Tマツト▽五徳縫いーなど5種類の水防工法が行われました。このうち積み土の工法では、自主防災組織や水防ボランティアの皆さんも土の作りや土の運びに汗を流しました。また、市消防団機動部隊による土砂流出防止訓練や陸上自衛隊と市婦人消

防協力隊連絡協議会による応急給食訓練、県防災航空隊と市消防本部による川に取り残された人の救助救出訓練なども行われました。

岩手・宮城内陸地震に見舞われ、復興に全力を上げている当市。自然の驚異を改めて感じさせられた中での訓練に、参加者は皆、災害に対する日ごろの備えの重要性を改めて認識し、防災に対する決意を新たにしながら、懸命に励んでいました。

- 1 堤防の決壊を防ぐ、くいと竹を使った「籠止め工法」を行う水防隊。時間との戦いに思わす力が入ります。
- 2 積み土の工法には自主防災組織などの皆さんが取り組み、重い土のうを協力して運びました。
- 3 川に取り残された人を、ワイヤーを使い川岸まで救出する訓練。
- 4 水害で負傷した人を速やかに病院へ運ぶため、県防災ヘリ「ひめかみ」による搬送訓練も行われました。